

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立玉津小学校

1 自己評価書

教育目標 感謝の気持ちと笑顔を大切に作る児童の育成						
基本方針 地域とのつながりを生かした信頼される学校						
本年度重点目標 1 地域とともにある学校づくり 2 心の教育 3 安全・安心な環境づくり 4 学びの充実						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C A	C
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C C	C
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C A	C
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C A	C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	(○成果と●課題) ○ 生活科の地域探検や閉校記念行事の海遊びなど、地域を知り、地域への愛着を醸成する活動を行うことができた。更に学びを深め、閉校後もふるさと玉津に誇りや愛着を持ち、地域と積極的に関わっていく児童を育てていきたい。 ○ 授業を参観させていただき、各種機器を効果的に使用できていると感じた。 ● ふるさと学習では、「閉校記念学習発表会で今まで学習してきたことをロイロノートを使ってプレゼンする。また、収穫したポンカンを来校者に食べていただき、感想交流をする。」という目標があるため、計画的に進めていく必要がある。 ● 読書を促す取組が足りなかった。 ● ロイロノートを児童間や教師と児童間の対話的な活動に積極的に使っていければよいと思う。					
	(改善策等) ・魅力的な本を児童に紹介していきたい。 ・読書習慣の定着について、秋に読書週間を設け、集中して本に親しむきっかけを作ればよい。ピカイチ大賞もあるので関連させるのもよいと思う。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B C A	B
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A B	B
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	C C B	C
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	C B	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	C A	
	(○成果と●課題) ○ お話ウィークを実施したのはよかった。担任以外の先生と話をすることで、たわいない会話でも自分の気持ちを出す場ができ、よかったのではないかな。 ○ 不登校の児童がいないことは、児童や家庭に寄り添った取組ができているからだと感じている。 ○ これからも教職員間のチームワークよく、報連相を確実に行っていきたい。					
	(改善策等) ・終わりの会で友達のよさを認め合う場を設けたり、学校行事や日々の活動について、振り返りの時間を十分に確保したりするなど、自己有用感や達成感を醸成する取組を工夫・改善したい。また、定期的にお話ウィークを設け、児童に相談しやすい環境づくり、児童の心に寄り添った生徒指導を継続していく。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価				
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B			
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	C	C			
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B			
③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	C	C				
<p>(○成果と●課題)</p> <p>○ 下校の見守りや地域探検の引率など、地域学校協働活動推進員を中心として地域の方々に手厚くサポートしていただき、大変ありがたい。</p> <p>● 80時間を超えないのが一番だが、それ以下の超過時間でも負担感が大きくないか心配している。しんどい時はしんどいといつでも言える職場が一番だと思っている。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワーク・ライフ・バランスの充実が図れるように、自身や家族を大切に考える考え方に変わっていくよう、言い続けていく。 ・ 常に業務改善の意識を持って日々の職務に当たり、皆が効率よく仕事ができるよう、気付いたら提案し合えるような雰囲気づくりに努める。 ・ 一人だけに仕事が集中していないか周りをよく見て、みんなで声を掛け合えるような職場づくりに努める。 									
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価				
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	C			
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	C B B				
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。		・教師アンケート	B	A
							・保護者アンケート	A	
	・地域アンケート	A							
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談できやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B			
				・保護者アンケート	B				
				・地域アンケート	B				
	<p>(○成果と●課題)</p> <p>○ 閉校を迎え、学校が子どもの意見を保護者や地域につなぎながら、これまでのように学校と家庭・地域がしっかりと連携・協働していきたい。また積極的に児童も学校運営協議会に参加させていきたい。</p> <p>○ 教頭先生の保護者や地域の方々との連携の在り方に感謝している。</p> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 閉校に向けて、運動会同様、地域の力が形となって表れるような取組をもっと提供していく。 ・ マチコミ配信について、緊急時以外にも日々の教育活動において活用できるようにしていく。 ・ 南海トラフ地震発生の際に、避難場所や避難経路、安否確認方法について、学校運営協議会で紹介し、指示を仰ぐ等、共通理解を図っておく必要がある。 								

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満